

日本周辺国際魚類資源調査

(要 約)

和田由香

目 的

国連海洋法条約に基づき、公海を回遊しているマグロ類及びサメ類の科学的データを補完するための調査を行う。

材料と方法

1. クロマグロ

(1) 漁獲状況調査

2014年1月～12月に調査対象とした図1に示す8地区にある漁業協同組合等（新深浦町漁業協同組合岩崎支所、深浦漁業協同組合、小泊漁業協同組合、三厩漁業協同組合、大間漁業協同組合、尻労漁業協同組合、六ヶ所村海水漁業協同組合、八戸みなと漁業協同組合及び(株)八戸魚市場）から水揚げ伝票を入手し、月別、漁法別、銘柄別に漁獲量を取りまとめた。

(2) 生物測定調査

2014年1月～12月に調査対象とした図1に示す深浦漁業協同組合、三厩漁業協同組合において、漁協職員が測定した尾叉長、体重データを入手し、月別にとりまとめた。また、大間漁業協同組合において、(独)水産総合研究センター国際水産資源研究所が測定した尾叉長、体重データを入手した。なお、尾叉長の測定は、三厩では漁獲された1,344尾中1,247尾、深浦では5,846尾中2,689尾、大間では3,307尾中2,076尾について行った。

2. サメ類

2014年1月～12月に調査対象とした八戸地区（図1）にある八戸みなと漁業協同組合及び(株)八戸魚市場の水揚げ伝票から、月別、漁法別、銘柄別の漁獲量を取りまとめた。

結 果

1. クロマグロ

(1) 漁獲状況調査

調査対象8地区全体の漁獲量は690トンと前年(779トン)の89%であった。海域別にみると、日本海(岩崎、深浦、小泊)では376トンと前年(459トン)の82%、津軽海峡(三厩、大間)では245トンと前年(284トン)の86%、太平洋(尻労、六ヶ所、八戸)では69トンと前年(36トン)の192%であった(図2)。

定置網を主体とした日本海の深浦、岩崎の漁獲のピークは6月にみられた。釣り、延縄を主体とした小泊では7月と10月に、津軽海峡の三厩では8月に、大間では8月と11月にみられた。太

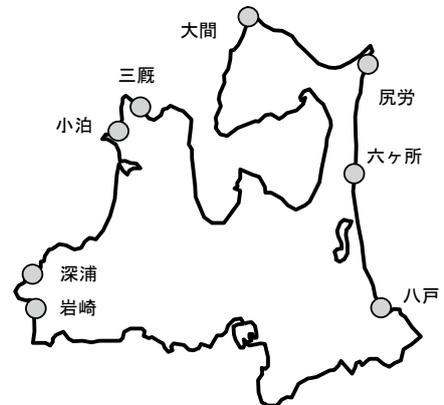


図1. 調査地点

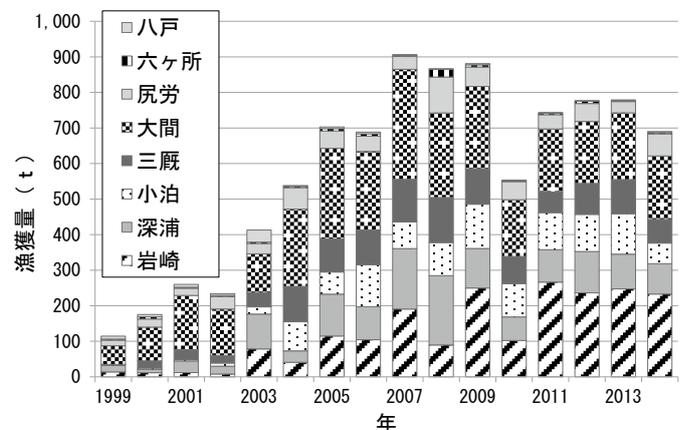


図2. 漁協別クロマグロ年間漁獲量の推移

平洋側は他の2海域に比べて漁獲は少ないが、尻労は6月と11月に漁獲のピークがみられた(図3)。

(2) 生物測定調査

三厩、深浦、大間におけるクロマグロの尾叉長を図4に示した。三厩では120~130cm台が主体で、前年漁期の主な漁獲対象サイズ150~180cm台と比べ小型であった。深浦では60~90cm台が主体で、5~7月は110~120cm台も多く漁獲されていた。大間では120~140cm台と175~190cm台が主体で、160~180cm台が主体であった前年漁期と比べ小型魚の割合が多かった。

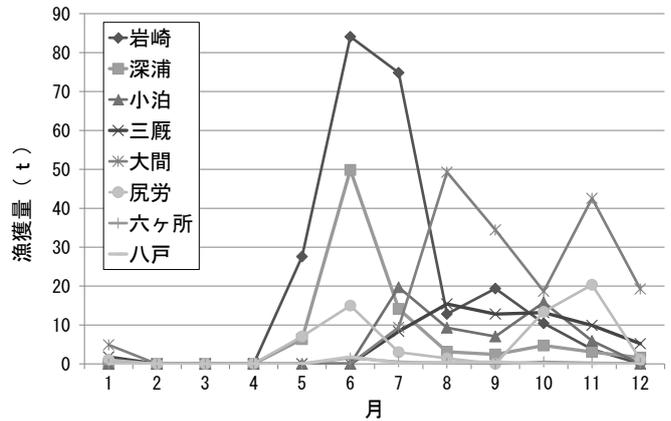


図3. 2014年の青森県沿岸8漁協におけるクロマグロ漁獲量の月別推移

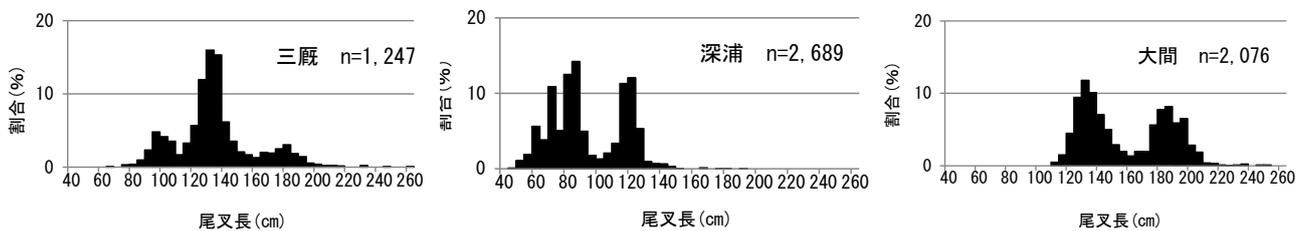


図4. 三厩、深浦、大間に水揚げされたクロマグロの尾叉長組成

2. サメ類

全漁獲量の98%をアブラツノザメが占め、そのほかネズミザメ等が少量水揚げされた。八戸のサメ類の漁獲量は、1995年から1999年は400~500トン台であったが、2002年から2006年にかけて100~200トン台と低迷した。その後漁獲量は2007年に増加し、以降は300~600トン台で推移した。2014年の漁獲量は300トンと前年(403トン)の74%であった(図5)。月別では、漁獲量は12~1月の冬季と4~6月の春季に多く、2014年は1月に148トンと最も多く漁獲された(図6)。

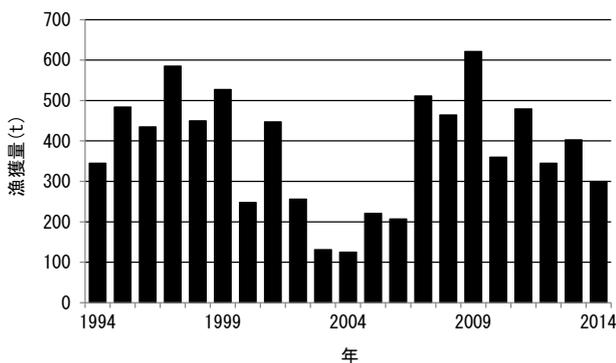


図5. 八戸で漁獲されたサメ類年間漁獲量の推移

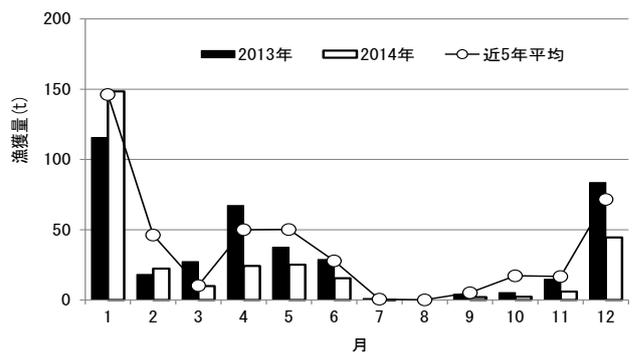


図6. 八戸のサメ類月別漁獲量の推移